

本質的な問い

わたしたちは、地域とどう関わり、どう生きるのか？

単元名

やさしい町って どんな町？ ～両城に笑顔の花を咲かせよう！～

児童生徒の実態

- ・地域に関心をもっている児童が多い。
- ・常日頃から地域の方に挨拶をしたり、地域の施設を利用したりしている児童が多い。
- ・地域の方の取組や施設について、本当の意味や課題を知らない。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・身近な環境や地域を支えている人々の素晴らしさ、それを守る人々の工夫が分かる。（知識・技能）
- ・相手に応じて絵や図と言葉で分かりやすくまとめ、表現することができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・自らの生活の在り方を見直し実践する。（主体性）

単元を貫く問い

やさしい町にしていくために自分たちには何ができるのだろうか。

【探究課題 やさしい町にするために支援する仕組みや人々】

【第3次】（10時間）

課題 わたしたちが笑顔の花を咲かせよう！

個別の問い

- ・自分たちはどんな地域貢献ができるのだろうか。
- ・考えたアイデアが実現可能かどうか確かめよう。
- ・自分たちで取り組んだ「両城のやさしさ探し」から見えてきたことは何だろう。

地域の方

（しかけ）

自分たちがふれあい広場を利用することを通して、自分たちが地域の方の喜びになっていることに気付かせ、自分たちができる取組を考えさせる。

【第2次】（20時間）

課題 なぜふれあい広場にいつも人が集まっているのだろうか。

個別の問い

- ・ふれあい広場に、いつも人が集まっている理由を話し合おう。
- ・ふれあい広場のボランティアさんと利用者の人にインタビューをしよう。
- ・両城の町の課題を調べよう。

地域の方

保護者

（しかけ）

ふれあい広場を利用する人や運営している人にインタビューをすることを通して、ふれあい広場の人達の努力や願いがあることに気付かせる。

【第1次】（15時間）

課題 行ってみよう！

個別の問い

- ・ふれあい広場に行ってみよう。
- ・ふれあい広場ってどんなところなのだろう。
- ・ふれあい広場は、なぜつくられたのだろう。
- ・ふれあい広場でおこなわれているイベントについて調べよう。

ふれあい広場に
掲示されている
写真等

（しかけ）

ふれあい広場「10周年記念行事」に参加することを通して、ふれあい広場に
来ている地域の方やふれあい広場の歴史について気付かせる。

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
 - ・解決の道筋がすぐにはわからない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
 - ・活動をこなすだけになっていないか。
 - ・児童生徒から問いを生み出すしかけがあるか。
 - ・学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
 - ・第1次だけで構成していないか。
 - ・第1次のまとめと第2次の課題設定が繋がっているか。